

複素多変数関数の *Cauchy* の積分公式と *Cauchy* の評価式を示し、その系として *Liouville* の定理を証明した。最後に、正則でかつ一乗可積分な関数の微分の任意のコンパクト集合上の スープノルムと L^1 -ノルムとの関係を調べた。

1.2 *Cauchy* の積分公式

定義 1.3 (特殊境界). $\vec{c} = (c_1, c_2, \dots, c_n) \in \mathbb{C}^n$, $\vec{r} = (r_1, r_2, \dots, r_n) \in \mathbb{R}_+^n$ に対して、

$$\Delta(\vec{c}, \vec{r}) = \prod_{j=1}^n \Delta(c_j, r_j) = \prod_{j=1}^n \{z \in \mathbb{C} \mid |z_j - c_j| < r_j\}$$

を半径 r_j の $c_j \in \mathbb{C}$ を中心とした多重開円板とするとき、

$$\partial_0 \Delta = \prod_{j=1}^n \partial \Delta(c_j, r_j)$$

を多重開円板 $\Delta(\vec{c}, \vec{r})$ の特殊境界という。

定理 1.2 (*Cauchy* の積分公式). $\Omega \subset \mathbb{C}^n$ を開集合、 u は変数毎に正則。すなわち、 Ω において他の変数を固定したとき各 z_j について解析的であるとする。 $\vec{c} \in \Omega$ とするとき、

$$u(z_1, z_2, \dots, z_n) = \frac{1}{(2\pi i)^n} \int_{\partial_0 \Delta} \frac{u(\xi_1, \xi_2, \dots, \xi_n)}{\prod_{\nu=1}^n (\xi_\nu - z_\nu)} d\xi_1 d\xi_2 \dots d\xi_n \quad \text{for } \forall z \in \Delta(\vec{c}, \vec{r})$$

が成立する。ただし、 $\overline{\Delta(\vec{c}, \vec{r})} \subset \Omega$ とする。さらに、

$$\begin{aligned} \partial^J u(\vec{z}) &= \frac{J!}{(2\pi i)^n} \int_{\partial_0 \Delta} \frac{u(\vec{\xi}) d\vec{\xi}}{(\vec{\xi} - \vec{z})^{J+e}} \\ &= \frac{j_1! j_2! \dots j_n!}{(2\pi i)^n} \int_{\partial_0 \Delta} \frac{u(\xi_1, \xi_2, \dots, \xi_n)}{\prod_{\nu=1}^n (\xi_\nu - z_\nu)^{j_\nu+1}} d\xi_1 d\xi_2 \dots d\xi_n \end{aligned}$$

が成立する。ただし、 $J = (j_1, j_2, \dots, j_n)$ に対して、

$$J! = j_1! j_2! \dots j_n!, \quad \partial^J = \left(\frac{\partial}{\partial \xi_1} \right)^{j_1} \left(\frac{\partial}{\partial \xi_2} \right)^{j_2} \dots \left(\frac{\partial}{\partial \xi_n} \right)^{j_n}, \quad (\vec{\xi} - \vec{z})^J = \prod_{\nu=1}^n (\xi_\nu - z_\nu)^{j_\nu}$$

とする。

定理 1.3 (*Cauchy* の評価式). u が多重円板 $\Delta(\vec{c}, \vec{r})$ の近傍で正則で、 $|u(\vec{z})| \leq M$ ($\forall \vec{z} \in \overline{\Delta(\vec{c}, \vec{r})}$) を満たすとき、

$$|\partial^J u(\vec{c})| \leq \frac{J! M}{r^J}$$

が成立する。特に、

$$\left| \frac{\partial}{\partial z_\nu} u(\vec{c}) \right| \leq \frac{M}{r_\nu} \quad \nu = 1, 2, \dots, n$$

²数学工房 <http://www.sugakukobo.com/>

系 1.1 (*Liouville* の定理). $f \in \mathcal{A}(\mathbb{C}^n)$ が有界すなわち、 $|f(\bar{z})| \leq M$ ($\forall \bar{z} \in \mathbb{C}^n$) を満たす $M > 0$ が存在するならば、 f は定数である。

定理 1.4. $\Omega \subset \mathbb{C}^n$ を開集合、 $K \subset \Omega$ を任意のコンパクト集合とすると、 $f \in \mathcal{A}(\Omega) \cap L^1(\Omega)$ ならば、 $\rho = d(K, \partial\Omega)$ と微分の階数 J のみに関係する定数 $C_{K,J} > 0$ が存在して

$$\|\partial^J f\|_K \leq C_{K,J} \|f\|_{L^1(\Omega)}$$

を満たす。

記録 by J.S